



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『ファーストクラスの心配り』『あなたの人格以上は売れない!』(プレジデント社)、『成「幸」学』(講談社)、『出過ぎる杭は打ちにくい!』(サンマーク出版)、『面白くなくちゃ人生じゃない!』(ロングセラーズ)、『小説・球磨川』(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.3percent-club.com

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 191

読書家の家康が日本を創った!

関ヶ原合戦で天下を盗った徳川家康は、明治維新まで270年も続く江戸幕府を作る。織田信長や豊臣秀吉のように生まれ持ったカリスマ性はなかったが、二人に負けない強力な武器を持っていた。それは書籍。戦場で窮地に陥った時も本から得た知識で見事に解決して天下人に駆け上がった。

愛 知県岡崎で大名の松平家に生まれて幼名は竹千代。松平は岐阜の織田信長と静岡の今川義元の強大な勢力に挟まれ、竹千代は8歳で今川家に人質に出される。そこで今川家の軍師である臨済寺の太原雪斎たいげんせつさいに教育を受ける。人質の孤独の中で与えられた兵法、儒学、易学、医学の本を読破。雪斎は、『妙心寺史』に「後日大鵬の雄飛」と竹千代のことを書き残し、評判は今川義元に届いて有能な武将として取り立てられる。今川が信長を攻めている時に、前線に兵糧を届ける大役を家康は命じられたが、そこは織田軍に取り囲まれて入り込む術がなかった。困った家康は落ちていて『孫子の兵法』を読み始める。「強い敵には餌を撒いて罠にかけるべし」、1カ所の敵陣に攻撃を仕掛けると敵は救援に集まってくる、その隙を縫って兵糧を運び、策は大成功。ところが大事件が勃発、信長が桶狭間で急襲をかけて義元の首を討ち取った。今川軍は離散し、家康は信長軍のど真ん中で孤立。そこでも冷静になって兵法書を読み始める。取った策略は、捕虜にしていた織田方の武将を先頭に立て織田陣営だと見せかけ敵陣地を通り抜けて故郷の三河に帰って来たのである。

名 古屋の蓬左文庫には戦国一の本コレクターだった家康所蔵書数千冊があり、最も多いのは意外や兵法書ではなく、政治書や哲学書である。家康32歳の時、何度も攻め込まれて屈辱を味わった甲斐の武田信玄が死んで徳川最大の敵が消えた。そこで『孟子』を読んでもみると、「敵が減んだり心配事がなくなると国は減びる」と。家康は、信玄の死を喜ぶ部下たちの前で一喝する。「信玄公のお蔭で我らもここまで強い軍に育ったのだ。敵ながら尊敬に値する立派な方だった!」。部下たちは心の大きな家康に心酔した。武田が減び、信長が本能寺の変で殺される事件が続くが、『老子』の「恨みには徳をもって報いよ」に従って、家康は敵将をねんごろに祀り、大事にした。それを見ていた武田勢は家康の家来としてついてくる。家康の『東照宮御実紀』

には、『論語』の、「政^{まつりごと}を為すに徳を以てす」から引用して、「政は人心を得るにあり」と記載されている。占領された民たちが新しい領主に戦々恐々とする中で、今までの掟は変えず税はもっと安くすると御触れを出して懐柔するなど書籍で学んだ教えを度々実践することで、名君として大躍進する。

家康が何度も読んだ、全巻が揃ったもので現存している最古の『源氏物語』も蓬左文庫に残っている。『三国志演義』赤壁の戦いなども家康の愛読書であった。書籍は1万冊以上も集められ、すべてが3部作られた。1部は天皇家へ、あと1部は幕府へ、そして残りは家康の蔵書に。万が一、焼失してもどれかが後世に残るように配慮している。そんな書物知識から、家康は「一国一城令」や「武家諸法度」を発案実行している。

ところが、今までの本に基づいた善行とは違う事態が起きる。秀吉の子である秀頼が大坂城にいて、天下はまだ豊臣を慕っていた。書を紐解くと、「天下のために暴悪を除くのは悪ではない」があった。つまり私利私欲ではなく、天下のための戦さである。幼い頃に読んだ『吾妻鏡』を読み直す。そこには、平清盛が情けをかけて幼い源頼朝を伊豆に流して助けたのが仇となって、平家が滅ぶ展開が出てくる。変な情けが国を混乱させて滅ぼす、秀頼を生かしておくのは間違いだと家康は確信、国家安泰のためには豊臣家を残すのは得策ではないと決意する。1615年、大坂夏の陣でついに大坂城を焼き尽くす。

家 康の本好きは代々の将軍に引き継がれ、寺小屋でも教科書として使われた『六論衍義』^{りくゆえんぎ}として流布する。高い識字率と教養が日本を大きく変えて行くことになる。幕末当時には日本人成人男子の40%、女性25%が「読み書きソロバン」が出来ていた驚異を黒船のペリーは伝えている。最先進国イギリスでさえ教育機関に通った経験がある男子は25%、女性に教える学校はまだなかった。

家康が残した言葉「世の物事がどうあるべきかを教え、或いは知るには本しかない。物事の正しい筋道をみんなが分かれば、世は治まり戦いが起きることはない」。家康のお蔭でいち早く明治維新と先進国入りを果たせたと言っても過言ではない。7歳児の読書量がその国の将来を語ると言われる。